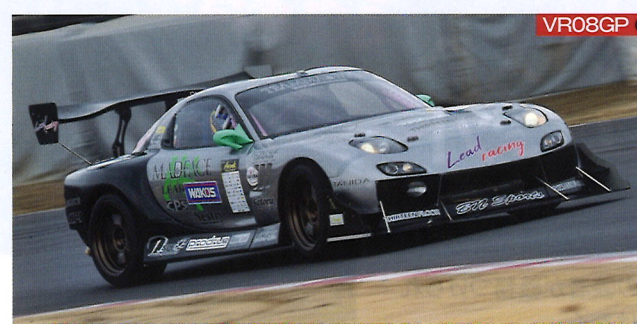


お手頃価格のハイグリップラジアル

VALINO VR08GPを Attack 筑波 2022で試す

ドリフトで名を馳せたヴァリノのタイムアタック向けハイグリップラジアル
このタイヤで Attack に参戦するカスタマーにズバリ、評価を聞いてみた



VR08GP ● インプレッション

LEAD RACING: 駄目人間 平岡さん



感覚はアドバンA052に似ていますが、同じ感覚でブレーキを頑張るとブレイクするし、最終コーナーも同じ速度では曲がれません。セッティング次第では差を詰められるかもしれませんが、グリップレベルは1割か1割半くらい低いという印象です。とはいえ、流れ出しがわかりやすく、扱いやすいのはアドバンテージとなるでしょう。コストパフォーマンスはかなり高いと思います。



VR08GP ● インプレッション

BE CRAFT: 元田博文さん



タイヤウォーマーを使用せず、履き替えてそのままコースインしたのですが、アウトラップからもう1周回れば本領発揮という感じでした。温まったあとの感覚は、素直でクセがなく、乗りやすくてタレも感じませんでした。今回のタイムは1分0秒157でしたが、1分切りも狙えた印象です。なお、このクルマではPOTENZA RE-12Dで58秒を出していますが、性能は十分だと思うので、ユーズドのタイヤを買って履くくらいなら、VR08GPをオススメします。



VR08GP ● インプレッション

VALINO タイヤ@オートレスキュー伊豆 TYPE-D&G: やばたん 安東さん



縦のグリップも横のグリップも際立ってよいとはいえませんが、国産の一般的なスポーツラジアルよりはハイグリップといえます。タイヤの温まりは2月のこの時期でも2周あれば熱が入ります。また、扱いやすいのがよいですね。たまに唐突な挙動もありましたが、セッティングで変わるかもしれません。ADVAN A050 GS とのタイム差は1.4秒でした。セミスリックとの差がそれくらいで済むのは優秀だと思います。



軽量 高剛性 安価のアドバンティホイール N820S

N820Sはヴァリノと「アドバンティホイール」とのコラボレーションで、サーキット走行向けのスポーツホイール。車検対応で安心して使えるとのこと。製法は鋳造で、リムの剛性を高めるフローリングのDST加工を用いている。なお、アドバンティホイールはかつて、メルセデスやトヨタにホイールを供給していたグローバルなメーカーだ。



カラーはマットブラック、ホワイト、ライムイエローの3色展開。サイズは18×9.5Jがinset 3とinset 12、18×10.5Jがinset 15となっている。キャンペーン価格は9.5Jが2万2880円、10.5Jが2万3980円

サイズと価格はこちら

VALINO VR08GP					
INCH	SIZE	SPEED RANGE	通常価格 (税抜き)	キャンペーン特価 (税抜き)	キャンペーン特価 (税込み 送料込み)
17	225/45R17	94W	1万6800円	1万4800円	1万6280円
	245/40R17	95W	1万8800円	1万6300円	1万7930円
	255/40R17	98W	2万0800円	1万7600円	1万9360円
18	235/40R18	95W	2万1800円	1万8600円	2万0460円
	245/40R18	97W	2万2800円	1万9800円	2万1780円
	265/35R18	97W	2万4800円	2万0800円	2万2880円
	295/30R18	98W	3万2800円	2万6800円	2万9480円
	315/30R18	98W	3万5800円	3万円	3万3000円

17インチと18インチの主要サイズをラインアップ。現在はキャンペーン中なので、かなりお得な価格設定となっている。なお、この春から各タイヤメーカーの製品値上げが生じているが、VR08GPは据え置きとのことだ

の超ハイグリップラジアルよりは多少タイムで劣るかもしれないが、そうであっても十二分なグリップを備え、かつ、ニュートラルで扱いやすい特性としたのだ。

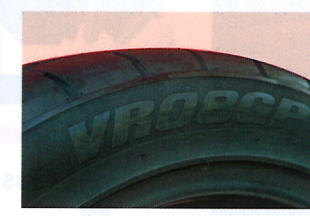
その結果、VR08GPの新品でタイムアタックに臨む人はもちろん、ここいちばんの舞台では国産超ハイグリップラジアルを奢る人も事前のテスト走行に使うようになった。データ収集や練習に使えるタイヤとして、定評を得たのだ。そんなわけで「安い」だけではないVR08GPだが、2022年2月に催されたAttack筑波の会場で、3名のカスタマー取材して、伺ったコメントを別記した。コストパフォーマンスに優れたクセがなく、扱いやすいことを各自が述べている。ぜひとも参考にしてほしい。



ヴァリノマーケティングの清水寿記さん。PRと日本向けタイヤの開発を担当している



ヴァリノは中国にある製造工場での生産だが、企画・設計・マーケティングなどは日本国内で行っている



ヴァリノはドリフトで知られているだけに、VR08GPもその系統のタイヤと思うかもしれないが、構造から異なる設計がなされている



扱いやすさの秘密はラウンドしたトレッドの形状にもある。滑り出しもグリップの回復も穏やかで、コントロールしやすいのが特徴



クセのない扱いやすさがアマチュア的好タイムを引き出す。リーズナブルな分、新品でアタックできる機会が増えるのもうれしい

日本で企画・設計されて中国でつくられる

サーキット走行はそれなりにお金が掛かる。消耗品としてはタイヤがその筆頭に挙げられるが、好タイムが望めるハイグリップタイヤを比較的頻りに新品で使えたらどうだろうか？ そんな願いを叶えてくれるのが、タイヤメーカー「ヴァリノ」の「VR08GP」だ。

まずは魅力的な価格。たとえば、245/40R17は1本1万7930円で、265/35R18は2万2880円という具合。ハイグリップラジアルとして破格であり、カスタマーが自身のクルマに履いて、試したくなるのも当然といえるだろう。

そして、次は誰もが気になる性能だ。グリップ力はもちろん、扱いやすさについても、ここではユーザーの生の声を聞いてみた。ヴァリノは中国の製造工場生産しているが、企画・設計・マーケティングなどは日本で行っており、VR08GPもまさにそうだ。目標とした価格設定は、定番の265/35R18インチを4本買ったとしても10万円以内に収まること。趣味としてサーキット走行を楽しむ人に安価で高性能なタイヤを供給したいという気持ちから取り組んだプロジェクトである。

また、開発陣はVR08GPのポジショニングを明確にした。国産